



各 位

2023年4月12日

会社名 株式会社イオンファンタジー
代表者名 代表取締役社長 藤原 徳也
(コード番号 4343 東証プライム市場)
問合せ先 取締役兼常務執行役員 管理統括
兼リスクマネジメント担当 井関 義徳
(電話 043-212-6203)
当社の親会社 イオン株式会社
取締役兼代表執行役社長 吉田 昭夫
(コード番号 8267 東証プライム市場)

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2023年1月13日に公表いたしました2023年2月期の連結業績予想及び個別業績予想と本日公表の実績値との差異につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異

(1) 2023年2月期通期 連結業績予想と実績値との差異(2022年3月1日～2023年2月28日)
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	73,200	300	350	△3,400	△172円00銭
実績(B)	72,690	849	1,318	△3,376	△170円82銭
増減額(B-A)	△510	549	968	24	
増減率(%)	△0.7	183.0	276.6	—	
(ご参考)前年同期実績 (2022年2月期)	60,170	△3,408	△3,385	△4,507	△228円07銭

(2) 2023年2月期通期 個別業績予想と実績値との差異(2022年3月1日～2023年2月28日)
(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	59,380		3,070	△3,400	△172円00銭
実績(B)	58,824		3,669	△3,938	△199円27銭
増減額(B-A)	△556		599	△538	
増減率(%)	△0.9		19.5	—	
(ご参考)前年同期実績 (2022年2月期)	50,410	△1,600	△1,007	△5,505	△278円57銭

(3) 修正の理由

(連結)

国内は、2023年2月期第4四半期連結会計期間に利益率の高いメダル部門の売上が改善したことにより、荒利益率が前回予想より0.5%改善いたしました。またコスト改善を進めたことにより当期の営業利益は約24億円となり期初の計画を上回りました。

中国はゼロコロナ政策への影響が期首から継続し、売上の低下が続きました。1月以降緩やかに売上の改善が進み、またコスト改善も推進したことにより当期の営業利益は約▲27.8億円となりました。

アセアンは第4四半期連結会計期間も引き続き好調が進み、売上高は修正予想を上回る水準です。結果、当期の営業利益は約12.2億円と過去最高益を達成いたしました。

連結営業利益は国内・アセアンの利益改善が進んだことにより修正予想を約5.4億円上回りました。

2月の各国為替レートが円安に動いたことにより、為替差益を当連結会計年度に9.3億円計上し想定より上回る結果となりました。特別損失では、中国の不採算店舗及び閉店店舗に伴う減損損失を第4四半期連結会計期間で約13億円計上し、又中国の不採算店舗13店舗を2023年度に閉店することを意思決定し閉店損失引当金繰入額を第4四半期連結会計期間で約1.5億円計上いたしました。(減損損失・閉店損失引当金繰入額は、中国セグメントでの計上金額)

以上の結果、当期の連結業績は、売上高は前回予想を若干下回りましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が各々前回予想を上回る結果となりました。

(単体)

売上高はモーリーオンラインの売上が計画を下回ったことにより修正予想より0.9%下回りました。第4四半期連結会計期間に荒利益率の高いメダル部門の改善が進み荒利益高がコロナ前水準に戻ったこと、またコスト改善を推進したことにより当期の営業利益は約24億円超(期初予想24億円)を計上いたしました。上半期は新型コロナウイルス感染拡大により7月・8月最大商戦に売上低下の影響がございましたが、下半期は売上を回復し上半期の影響をカバーし営業利益は期初予想を上回りました。合わせて為替差益の計上により経常利益は修正予想を19.5%上回りました。特別損失には主に中国等の事業損失引当金繰入損を第4四半期連結会計期間に約30億円計上いたしました。

※上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上